教授へのインタビュー
BUI Thanh Huong

BUI Thanh Huong

新学部、サステイナビリティ観光学部で授業を実施

発展著しい別府の観光産業を活用したアクティブラーニング

2023年度春セメスター、APUキャンパスは熱気に包まれています。その背景には、サステイナビリティ観光学部（ST）の新設や、APUの教育開発・学修支援センター（EDLSC）の科目を含む、カリキュラムの改革があります。

今セメスターのプロジェクトQでは、サステイナビリティ観光学部と教育開発・学修支援センター（EDLSC）の著名な2人の教授にインタビューし、その教授法を分析することで、他の先生方の新境地を開拓する一助になればと考えております。

I. はじめに

ブイ タン フォン教授は、オーストラリアのグリフィス大学で観光経営学の博士号を取得したされました。先生はベトナム、オーストラリア、ヨーロッパ、日本での教育と勤務経験があり、専門分野は人類学から観光学、人文地理学まで多岐にわたります。 担当科目は、観光経済学、イベント・フェスティバル・マネジメント、旅行業などです。また、九州大学との共同オンライン総合学習（COIL）も教えられています。修士および博士課程の学生も指導されています。

II. Q&A セクション

1. サステイナビリティ観光学部について

Q: サステイナビリティ観光学部とその特徴について紹介お願いします。

A：サステイナビリティ観光学部（以下ST）の設置は、APUの最も新しい取り組みです。持続可能な開発という世界的な風潮と、日本国内だけではなく世界的な観光需要の高まりに対応する必要性から生まれました。この学部の基盤は、第一に、グローバルで多様性のある大学であるAPUの強み、第二に、本学と地元別府のコミュニティとのつながりです。

具体的に言えば、ST のカリキュラムには、APM のコースにヒントを得た経営や起業家を育む授業が含まれており、同時に APS の学問と関係する 観光、環境開発、経済学も含まれています。そうすることで、STはAPSとAPMの双方の強みと競争力を生かし、新しく魅力的なプログラムを開発することができます。さらに、デジタル化とデータサイエンスの世界的なトレンドも活用しています。全体として、ST は社会科学と経営学が孤立したままではなく、相互に作用し肥沃化し合うような、深みのある学際的なプログラムを学生に提供しています。

2．BUI先生の授業スタイル

Q ： 授業の進め方について教えてください。

A：　APUで観光学を教えて10年になりますが、その間に得た経験が、私独自のアプローチを形成するのに役立っています。ご存知のように、観光は国際的な現象です。そのため、この分野の研究者や学生は、様々な国や地域における観光の発展や世界的な取り組みについて、常に最新の情報を得る必要があります。私はAPUの多文化環境に感謝しています。この環境のおかげで、APUは異文化学習を経験し、多様な背景を持つ学生から意見を集めるための優れた研究機関となっています。学生のバックグラウンドや興味から、学生がキャンパスでの学生生活で直面するかもしれない問題、または観光産業で働くための準備に取り組めるような演習やプロジェクトを作成しています。このアプローチの結果、学生たちはそれぞれの活動により熱心に取り組み、互いに学び合うようになりました。

STの授業のもうひとつの重要な特徴は、実践的な教育アプローチを取り入れていることです。私の授業では、地域のリソースに合わせた授業を行い、学生たちに地域の方々と直接関わりを持ち、実際の生活、地域の環境を体験するよう促しています。こうすることで、学生たちは学問的知識がいかに現実世界に関係しているか、そして実社会がいかに自分たちの学習の向上に影響を与えているかを知ることができます。このような実践は、私のゼミの授業で定期的に行っています。例えば、学生に別府の観光地を訪ね、学んだことを生かして観光客にインタビューをしたり、観光客の視点から地域の問題を理解したりしています。そこで得たものから、地域の問題に対する解決策を議論したり、APUの学生の多様なバックグラウンドや経験を活かして、別府の観光を促進したりする方法を考察しています。

写真：中津校外学習の様子

また、学生の興味や実践に応じて授業を調整することで、学生が興味を持った実生活の問題を積極的に研究するよう動機づけています。

> 学生が興味を持ったトピックに仲間の視点を加えて再度取り組ませています。

例えば、あるゼミの授業では、外国人宿泊客に別府の伝統的な温泉を体験してもらう方法を研究しました。私たちのプロジェクトは、まず受講生の関心事 を 集計し、共通の関心事を突き止めることから始まりました。そして、別府の有名な観光地であるひょうたん温泉を訪れたことがある、性別も年齢もさまざまな 40 人の外国人を対象とした実習を行うことに決めました。

その後、学生たちはひょうたん温泉で利用客にインタビューを行い、収集した データから、温泉が外国人客に与える心理的影響と、より多くの外国人観光客をひきつけるための様々な体験をどのように調整していくべきかを話し合いました。全体として、学生たちが単なる学術的、経営的アプローチではなく、観光客の視点から自分たちの関心事を再検討し、理解することができたので、私はこの経験 は素晴らしい成功を収めたと思っています。

Q：APUの新棟（グリーンコモンズ）をどのように活用していますか？

A：　グリーン・コモンズのテクノロジーと設備は、学生のアクティブ・ラーニングを促進するのに役立っています。特に、国内外の他大学と共同で運営する共同学習・教育活動には重要です。私の担当科目では、九州大学の学生や教員との共同授業（COIL）を実施している。2023年度には、APUの新しいテクノロジーを活用した初めての遠隔授業が行れます。マルチメディアを駆使した最新の設備とフレキシブルな教室環境で、両大学の学生や教員による双方向のディスカッションが可能です。新校舎のテクノロジーと設備が可能にした共有型の授業運営により、教育の質は向上しています。

写真：九州大学との共同セミナー

他にも、カフェテリアやグリーンコモンズ内にあるオリーブ・カフェなど、学生にとって有益な施設もあります。学生たちが勉強したり、交流したり、絆を深めたりするのに最適な場所であるだけでなく、これらの場所を観察したり利用したりすることで、観光産業の重要な部門である食品流通業の運営について学ぶ貴重な場ともなっています 。

写真：APUカフェテリア

写真：カフェオリーブ

3．チャンスと課題

Q：STの授業を担当する上で、どのようなチャンスや課題に直面していますか？

A：　前述の通り、STのカリキュラムは、データサイエンス、統計学、会計学、経済学、計量経済学などの専門知識科目を含む様々な学問分野の要素を取り入れています。このようなスキルに焦点を当てたSTの新しい授業は、学生の将来にとって財産となり、起業プロジェクトを設計したり、技術的な分野へと職業選択の幅を広げたりするのに役立ちます。

というのも、多くの学生は未だに純粋に社会科学の観点からSTにアプローチしているため、STの授業で提示される技術的な課題に挑戦することを恐れているからです。したがって、私たち教員の喫緊の使命は、そのような学生の認識を変え、学びがいのある専門科目を探求し、挑戦するよう促すことだと考えています。

Q：専門的な授業に取り組む意欲を高めるために、どのような工夫をされていますか？

A：　ST科目のラーニングパスは、知識と課題の階層構造で設計されています。初級レベルの学生は、簡単な知識から始めます。その後、セメスターが進むにつれ、中級、上級クラスへ進んでいき、知識が着実に深まるようにしています。APUの多くの学生が語学習得を得意としていますので、このような流れで専門分野も習得していきます。

写真：ブイ先生の授業

4. 将来の抱負

Q：STの将来について、どのような考えや抱負をお持ちですか？

写真：ブイ先生とインタビュアー

A：　私たちがSTを設立した目的は、急速に発展しているサステイナビリティとツーリズムの分野のスキルと知識を学生に提供することです。そのため、私たちは常にこれらの分野からの生の情報を収集・分析し、地元企業やグローバル企業のニーズに合わせてカリキュラムを更新し、作り上げていかなければなりません。そうすることによってのみ、私たちは学生に対する責任を果たし、学生たちの明るい未来への扉を開くことができると考えています。

Q：そのような志を達成するために、同僚の先生方や学生に期待することは何ですか？

A：　教え方や勉強の仕方は人それぞれですが、STの新しいカリキュラムを一緒に探求し、その課題を受け入れ、自分なりのチャンスを見つけることができればと思います。

インタビュアーの感想

ブイ教授には、ご多忙にもかかわらず、インタビューの時間を調整していただいたこと、大変感謝しています。お話の中で、学生が別府の観光客やサービスプロバイダーとの交流を通して教えるという、先生の革新的なアプローチに最も感銘を受けました。個人的には、別府の穏やかなライフスタイルと天然温泉が、私がAPUに惹かれた最大の要因の一つでした。ですから、ブイ教授が学生たちに別府の良さを伝え、学んだことを別府観光の発展に役立てるよう指導してくれていることを嬉しく思います。

インタビュアー

名前： ファム・チャン・ヂュック・アイン（アン）
学部：APS（文化・社会・メディア）
出身：ベトナム
メッセージ： はじめまして！文化社会メディア専攻の3年のアンです。読書と文章を書くことが好きで、将来はプロの小説家か脚本家になりたいと思っています。ALRCSのプロジェクトQに参加することで、大好きなAPUに貢献しながら、文章を書く練習やスキルアップもできるなんて、まさに夢のようです。この記事を読んでくださった読者の皆様に、心から感謝し、私たちの議論から何か有益なものを見出していただければ幸いです。

Qとは

APU で素晴らしい授業を行っている先生方はたくさんいらっしゃいますが、先生方が授業中にどのような工夫をしているのか知ることが出来れば、他の先生の授業改善にも役立つ。そのために、インタビューをして授業の工夫を教えてもらいたい、ということで始めた取り組みです。この記事は、授業の「Quality＝質」を高める、質を高めるための「Question＝問」に答える、授業改善の「Queue＝列」をなす、など、色々な意味を込めて「Q」と名付けました。先生方の授業の質向上の「Quest」に役立てられると幸いです。